

「ゆきだるま キャッチ！」

教科・場面

国・算（グループ）

授業・実践のねらい

- ・ふわふわ動く雪だるまを追視する。（国語）
- ・手を伸ばして触れる。または触れようと手を伸ばす。（算数）
- ・雪だるまに触れる→音楽と光が始まるという因果関係の理解。（算数）

対象の児童・生徒

・小学部（3年、4年、5年 各1名ずつ、計3名の発達段階別の学習グループ）

・重度重複チェックリスト 国算共にⅢ段階。

国語の段階としては【声の変化への気付き、音の方向性への気付き、特定のフレーズへの気付き】

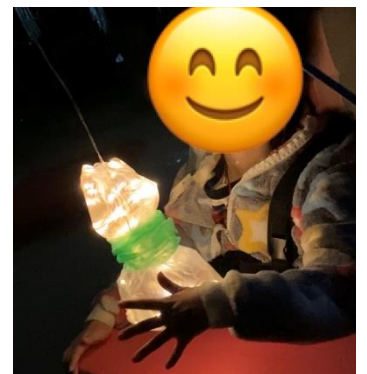
算数の段階としては【把持、単純な操作、リーチング、単純な因果関係の理解】が当てはまる。

・グループの具体的な目標は

【国語】①特定の音が何らかの前振りを示していることに気づく。②音や活動の始まりと終わりがわかる。③特定の声で喜んだり不安がったりする。

【算数】目標とするものに手を伸ばして、取る・引っ張る・握る・押す等の操作をする。 としている。

教材・教具



電池で付く電飾を半透明のビニール袋に入れて、棒に吊るすだけ！

触り心地がよく、触ったり当たったりするとしゃかしゃか音がするので児童が興味を持ちやすい。

●授業の流れ●

①真っ暗で吹雪の音になる教室にふわふわ雪だるまが登場→②児童3人の前をふわふわ回る→③児童が触れたり、手を当てたりしたら短いダンス音楽とミラーボールがスタート（フィードバック）→④音楽が終わったあと、雪だるまからの誉め言葉がある→この流れをたくさん繰り返す。

●授業のポイント●

- ・ふわふわと動かし、追視できているかや手を伸ばす場所（見やすさや手の出しやすさ）を観察、共有。
- ・吹雪の音&真っ暗 → ダンス音楽&ミラーボールで活動の切り替わりや因果関係がわかりやすいようにする。
- ・ミラーボールは電源リレーとボタンスイッチを使い、音楽が流れている間だけ光るようにした。（操作は教員。）
- ・雪だるま（電飾を袋に入れたもの）を棒にぶら下げること、近くにいる人（教員）に気が逸れないようにした。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・音や明暗がはっきりと切り替わるため、繰り返し学習することで因果関係がわかり、何度も連続して手を伸ばすことができるようになる児童がいた。（普段は物にあまり触れたがらないため、音楽が聴きたくて手を伸ばしていたことは明確であった。）
- ・3人の前を回っていくため、離れると呼ぶように手を伸ばしたり声を出したりする児童が居たり、遠くから近付いたことに気付くことができた児童が居たりと雪だるまへの興味・関心をはっきりと表出できていた。